

術後腸管に対するダブルバルーン ERCP 検査の有効性と安全性についての検討

1. 研究の対象

2009年1月1日～2016年10月30日までに当院において、術後再建腸管（胃全摘後RY再建、胆管空腸吻合+RY再建、B-II法再建、PD後等）に対しダブルバルーン ERCP を行った症例

2. 研究目的・方法

目的：2009年1月1日～2016年10月30日までに当院において行ったダブルバルーン ERCP の有効性と安全性について証明する。

方法：ダブルバルーン ERCP を施行した症例の年齢、検査時間、処置内容、処置成功率、到達率、胆管もしくは膵管造影成功率、合併症率、入院期間等について調査する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

主要評価項目：手技成功率、臨床的成功率

副次評価項目：偶発症発生率、入院期間、手技時間、主乳頭または胆管吻合部までの到達時間など

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院

電話：096-351-8000(代)

研究責任者：消化器内科 上川 健太郎

以上